

## 授業計画(シラバス)

科目名	動画制作演習Ⅰ		指導担当者名	鈴木 良明
実務経験	有	テレビ局で映像ディレクターとして3年以上従事		
開講時期	通年	28ターム	対象学科学年	動画・映像クリエイト科1年
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	実習を通して動画を撮影・編集を学び、業務レベルの動画を作成できるようになる。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	パソコン カメラ			
授業外学習の方法	様々な映像作品を見る			
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>	
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	授業の流れについて	
	2	動画とは	動画についての基礎知識習得	
	3	動画の作成方法について	作成方法と使用ソフトについての説明	
	4	グループ分け	動画制作グループ分け	
	5	動画企画作成①	グループに分かれての動画企画制作	
	6	動画企画作成②	グループに分かれての動画企画制作	
	7	動画企画作成③	グループに分かれての動画企画制作	
	8	撮影①	企画を元にした動画撮影	
	9	撮影②	企画を元にした動画撮影	
	10	撮影③	企画を元にした動画撮影	
	11	編集①	撮影した動画の編集	
	12	編集②	撮影した動画の編集	
	13	編集③	撮影した動画の編集	
	14	期末テスト	作成した映像のプレゼンテーション	
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				

## 授業計画(シラバス)

科目名	動画制作演習Ⅰ		指導担当者名	鈴木 良明
実務経験	有	テレビ局で映像ディレクターとして3年以上従事		
開講時期	通年	28ターム	対象学科学年	動画・映像クリエイト科1年
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	実習を通して動画を撮影・編集を学び、業務レベルの動画を作成できるようになる。			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	パソコン カメラ			
授業外学習の方法	様々な映像作品を見る			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	前期振り返り		
	2	仕事をする上での動画とは	仕事上で気を付けることを考える	
	3	依頼の受け方	依頼を受ける方法について	
	4	グループ分け	動画制作グループ分け	
	5	動画企画作成①	グループに分かれての動画企画制作	
	6	動画企画作成②	グループに分かれての動画企画制作	
	7	動画企画作成③	グループに分かれての動画企画制作	
	8	撮影①	企画を元にした動画撮影	
	9	撮影②	企画を元にした動画撮影	
	10	撮影③	企画を元にした動画撮影	
	11	編集①	撮影した動画の編集	
	12	編集②	撮影した動画の編集	
	13	編集③	撮影した動画の編集	
	14	期末テスト	作成した映像のプレゼンテーション	
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				

## 授業計画(シラバス)

科目名	動画プランニング演習		指導担当者名	青木 龍太郎
実務経験	有	フリーで5年の映像編集を行っている		
開講時期	通年	28ターム	対象学科学年	動画・映像クリエイト科1年
授業方法	講義:	演習: ○	実習:	実技:
年間時間数	84ターム 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動画配信における基礎的な知識の習得</li> <li>・発想力、プランニング力の向上</li> <li>・基本的な動画編集力の取得</li> </ul>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Machintosh PC</li> <li>・Adobe Premiere Pro</li> </ul>			
授業外学習の方法	クリエイターとしての視点で動画やインフルエンサーのリサーチ			
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>	
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業説明	
	2	企画の基礎	企画(プランニング)の必要性	
	3	企画の基礎	企画書の基礎的な制作方法	
	4	企画の基礎	コンセプトや制作意図について	
	5	企画の基礎	設定したターゲットにあった規格の重要性	
	6	企画の基礎	現在の流行、需要のリサーチ(年齢、性別指定)	
	7	企画の基礎	自分と他人の価値観のギャップ	
	8	企画の基礎	現状の基本的な企画スタンス(既存+ $\alpha$ or 新しいもの)	
	9	企画の基礎	統一性を持たせる意味(ブランディング)	
	10	後期に向けた企画制作	後期に制作する映像の企画書制作	
	11	後期に向けた企画制作	後期に制作する映像の企画書制作	
	12	後期に向けた企画制作	後期に制作する映像の企画書制作	
	13	前期期末試験	課題提出、プレゼンテーション	
	14	前期振り返り	課題とプレゼンテーションについて講評	
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				

## 授業計画(シラバス)

科目名	動画プランニング演習		指導担当者名	青木 龍太郎
実務経験	有	フリーで5年の映像編集を行っている		
開講時期	通年	28ターム	対象学科学年	動画・映像クリエイト科1年
授業方法	講義:	演習:	○	実習: 実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動画配信における基礎的な知識の習得</li> <li>・発想力、プランニング力の向上</li> <li>・基本的な動画編集力の取得</li> </ul>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Machintosh PC</li> <li>・Adobe Premiere Pro</li> </ul>			
授業外学習の方法	クリエイターとしての視点で動画やインフルエンサーのリサーチ			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	映像について	映像の種類と授業で学ぶ映像の種類の説明	
	2	映像について	興味を持つきっかけ(サムネイル等)	
	3	映像について	人間の集中力の持続と映像の関連性	
	4	映像についての確認	学習した映像の知識の確認と企画への落とし込む重要性	
	5	Premiere proの使い方	データの作成方法と書き出し	
	6	Premiere proの使い方	カット、文字入れ、音入れ	
	7	Premiere proの使い方	機能の使用方法(基本的なエフェクト)	
	8	映像制作	企画に基づいた制作 個別指導・添削	
	9	映像制作	企画に基づいた制作 個別指導・添削	
	10	映像制作	企画に基づいた制作 個別指導・添削	
	11	映像制作	企画に基づいた制作 個別指導・添削	
	12	映像制作	企画に基づいた制作 個別指導・添削	
	13	後期期末試験	課題提出、プレゼンテーション	
	14	後期振り返り	課題とプレゼンテーションについて講評	
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				

## 授業計画(シラバス)

科目名	メディアリテラシー概論		指導担当者名	松岡純代
実務経験	有	制作会社、フリーカメラマンとして写真撮影業務に10年間従事し、現在も活躍中		
開講時期	通年	28ターム	対象学科学年	動画・映像クリエイト科1年
授業方法	講義：○	演習：	実習：	実技：
年間時間数	28 時間		週時間数	1 時間
学習到達目標	<p>前期のポイント(以下の力を身に付ける)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報モラル</li> <li>・メディアに対する自己コントロール力</li> <li>・情報をうのみにせず主体的批判的に受け取る力</li> </ul>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。          期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。          成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	Machintosh PC、ノート、筆記用具			
授業外学習の方法	・メディアに触れること			
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>	
授業 計画 前期	1	授業の説明	進め方、概要	
	2	メディアリテラシーを考える	メディアリテラシーの意味	
	3	メディアを知る	メディアの種類	
	4	SNSを知る	SNSを使用する上での注意点	
	5	SNSトラブル	SNSトラブルの対処法、ポイント	
	6	ネット犯罪	加害者・被害者にならないために①	
	7	ネットストーカー	加害者・被害者にならないために②	
	8	アンガーマネジメント	自己マインドのコントロールについて	
	9	ネットニュース	ネットニュースの仕組み	
	10	フェイクニュース	文章の編集、画像・動画の編集、切り取りについて	
	11	ネット広告	ネット広告の仕組み	
	12	期末試験準備	試験範囲発表	
	13	前期期末試験	期末試験	
	14	前期振り返り	前期振り返り	
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				

## 授業計画(シラバス)

科目名	メディアリテラシー概論		指導担当者名	松岡純代	
実務経験	有	制作会社、フリーカメラマンとして写真撮影業務に10年間従事し、現在も活躍中			
開講時期	通年	28ターム	対象学科学年	動画・映像クリエイト科1年	
授業方法	講義:	○	演習:	実習:	実技:
年間時間数	28 時間		週時間数	1 時間	
学習到達目標	<p>前期のポイント(以下の力を身に付ける)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報モラル</li> <li>・メディアに対する自己コントロール力</li> <li>・情報をうのみにせず主体的批判的に受け取る力</li> </ul>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。          期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。          成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	Machintosh PC、ノート、筆記用具				
授業外学習の方法	・メディアに触れること				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 後 期	1	SNSマーケティング	SNSマーケティングの説明		
	2	SNSマーケティング	バズらせるための考察		
	3	情報発信をしてみよう	記事を書くコツと注意点		
	4	情報発信をしてみよう	記事を読んで分析しよう		
	5	SNSを分析してみよう	アカウント分析		
	6	SNSを分析してみよう	インサイト		
	7	SNSを分析してみよう	マーケティング		
	8	JARO	景品表示法について		
	9	JARO	優良誤認		
	10	JARO	有利誤認		
	11	JARO	薬機法		
	12	期末試験準備	試験範囲発表		
	13	後期期末試験	期末試験		
	14	年間の講評			
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	ストーリーミング実習 I □		指導担当者名	パクスフン
実務経験	有	音響、配信業務経歴20年以上		
開講時期	通年	28ターム	対象学科学年	音響・ミュージック科2年□
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	実習を通して動画を撮影・編集を学び、さらには配信の現場を自分たちで作れるようになる。□ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	パソコン カメラ ATEM□			
授業外学習の方法	様々な映像作品を見る□			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 前期	1	動画とは	動画の画角等	
	2	動画を作ってみよう	premiere proを使用した動画制作	
	3	動画を作ってみる2	premiere proを使用動画の書き出し方法	
	4	配信	Aiを使用したテロップ作りをできるようにする。	
	5	配信	Aiを使用したテロップ作りをできるようにする。	
	6	配信	youtubeの設定と配信	
	7	配信	配信に必要なブロック図と配線の書き方	
	8	配信イベント	配信イベント行ってみる	
	9	配信用のCMを作ってみる	動画を配信に合うように作る	
	10	配信用のCMを作ってみる	動画を配信に合うように作る	
	11	配信用のCMを作ってみる	動画を配信に合うように作る	
	12	配信用のCMを作ってみる	動画を配信に合うように作る	
	13	期末試験		
	14	振り返り		
履修上の留意点 ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

## 授業計画(シラバス)

科目名	ストリーミング実習 I □		指導担当者名	パクスフン
実務経験	有	音響、配信業務経歴20年以上		
開講時期	通年	28ターム	対象学科学年	音響・ミュージック科2年□
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	実習を通して動画を撮影・編集を学び、さらには配信の現場を自分たちで作れるようになる。□ □ □ □			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	パソコン カメラ ATEM□			
授業外学習の方法	様々な映像作品を見る□			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	前期振り返り		
	2	配信のためのプランニング	配信時間を考える	
	3	タイムコード	音声と映像を合わせる	
	4	配信企画	配信の企画を立てる	
	5	配信必要な素材	配信するときに画面に必要な情報を一覧にまとめる	
	6	良い音で配信するためには？	配信での良い音する方法	
	7	音楽以外の配信プラン	朗読劇での配信	
	8	音楽以外の配信プラン	e-Sportsでの配信	
	9	音楽以外の配信プラン	演劇での配信	
	10	校内ライブで配信するたのプラン	配信プランを立ててみる	
	11	校内ライブで配信するたのプラン	実際に配信をしてみる	
	12	校内ライブで配信するたのプラン	弾き語りの配信をしてみる	
	13	期末試験		
	14	振り返り		
履修上の留意点 ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				



## 授業計画(シラバス)

科目名	動画撮影実習 I □		指導担当者名	佐藤 嶺
実務経験	有	カメラマン、動画撮影、動画編集者として5年間勤務し、現在フリーで活動している		
開講時期	通年	28ターム	対象学科学年	動画・映像クリエイト科1年、グラフィック系学科2年□
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	基礎的な動画撮影方法、Premiere Proでの動画編集技術を習得し、SNS等への動画投稿までの一連の流れを体験する。□			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	Machintosh PC、Premiere Pro			
授業外学習の方法	メディアを通して動画の撮影・編集方法を研究する			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画 前期	1	動画とは	授業の流れについて	
	2	動画を作ってみよう	動画についての基礎知識習得	
	3	動画を作ってみる2	作成方法と使用ソフトについての説明	
	4	配信	動画制作グループ分け	
	5	配信	グループに分かれての動画企画制作	
	6	配信	グループに分かれての動画企画制作	
	7	配信	グループに分かれての動画企画制作	
	8	配信イベント	企画を元にした動画撮影	
	9	配信用のCMを作ってみる	企画を元にした動画撮影	
	10	配信用のCMを作ってみる	企画を元にした動画撮影	
	11	配信用のCMを作ってみる	撮影した動画の編集	
	12	配信用のCMを作ってみる	撮影した動画の編集	
	13	期末試験		
	14	振り返り		
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				

## 授業計画(シラバス)

科目名	動画撮影実習 I □		指導担当者名	佐藤 嶺
実務経験	有	カメラマン、動画撮影、動画編集者として5年間勤務し、現在フリーで活動している		
開講時期	通年	28ターム	対象学科学年	動画・映像クリエイト科1年、グラフィック系学科1,2年□
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	基礎的な動画撮影方法、Premiere Proでの動画編集技術を習得し、SNS等への動画投稿までの一連の流れを体験する。□			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	Machintosh PC、Premiere Pro			
授業外学習の方法	メディアを通して動画の撮影・編集方法を研究する			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画 後期	1	前期振り返り		
	2	配信のためのプランニング	仕事上で気を付けることを考える	
	3	タイムコード	依頼を受ける方法について	
	4	配信企画	動画制作グループ分け	
	5	配信必要な素材	グループに分かれての動画企画制作	
	6	良い音で配信するためには?	グループに分かれての動画企画制作	
	7	音楽以外の配信プラン	グループに分かれての動画企画制作	
	8	音楽以外の配信プラン	企画を元にした動画撮影	
	9	音楽以外の配信プラン	企画を元にした動画撮影	
	10	校内ライブで配信するたのプラン	企画を元にした動画撮影	
	11	校内ライブで配信するたのプラン	撮影した動画の編集	
	12	校内ライブで配信するたのプラン	撮影した動画の編集	
	13	期末試験		
	14	振り返り		
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				

## 授業計画(シラバス)

科目名	コンテンツ制作実習		指導担当者名	伊東 広	
実務経験	有	音響制作、スタジオ経営者			
開講時期	通年	28ターム	対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年、声優科2年	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間	
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音響機材セッティング/音声収録ができる</li> <li>・パソコンでのオーディオデータ編集入門</li> <li>・文章作成/構成/添削/読み上げの技術向上</li> <li>・1年生:ボイスサンプル制作</li> </ul>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	パソコン、マイク、ヘッドホン、オーディオインターフェース、ケーブル類				
授業外学習の方法	収録した音声を編集アプリで編集をし、授業内容の復習を行う				
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>		
授業 計画 前期	1	オリエンテーション	自己紹介・マイク～スピーカー音が出るまで		
	2	パソコン基礎	パソコン操作基礎・ソフトインストール・データ種類/作成/保存		
	3	波形編集ソフト①	PC+オーディオIF 録音		
	4	波形編集ソフト①	PC+オーディオIFキューベース① 録音		
	5	波形編集ソフト②	キューベース② 波形編集・エフェクト1		
	6	波形編集ソフト②	キューベース② 波形編集・エフェクト1		
	7	波形編集ソフト③	キューベース③ 波形編集・エフェクト2、小テスト		
	8	波形編集ソフト③	キューベース③ 波形編集・エフェクト2、小テスト		
	9	ボイスサンプル研究①	歌ってみた制作、仮想CM制作		
	10	ボイスサンプル研究②	歌ってみた制作、仮想CM制作		
	11	ボイスサンプル研究③	歌ってみた制作、仮想CM制作		
	12	ボイスサンプル研究④	歌ってみた制作、仮想CM制作		
	13	前期期末試験	歌ってみた制作、仮想CM制作		
	14	前期振り返り	波形編集ソフト復習、ボイスサンプル復習振り返り		
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	コンテンツ制作実習		指導担当者名	伊東 広
実務経験	有	音響制作、スタジオ経営者		
開講時期	通年	28ターム	対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年、声優科2年
授業方法	講義:	演習:	実習:	○ 実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音響機材セッティング/音声収録ができる</li> <li>・パソコンでのオーディオデータ編集入門</li> <li>・文章作成/構成/添削/読み上げの技術向上</li> <li>・1年生:ボイスサンプル制作</li> </ul>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>			
使用教材	パソコン、マイク、ヘッドホン、オーディオインターフェース、ケーブル類			
授業外学習の方法	収録した音声を編集アプリで編集をし、授業内容の復習を行う			
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>	
授業 計画 後 期	1	音響制作①	舞台音響制作体験①	
	2	音響制作②	舞台音響制作体験②	
	3	作品制作①	ボイスラジオドラマ制作 企画	
	4	作品制作②	ボイスラジオドラマ制作 企画	
	5	作品制作③	ボイスラジオドラマ制作 台本制作・キャスティング	
	6	作品制作④	ボイスラジオドラマ制作 台本制作・キャスティング	
	7	作品制作⑤	ボイスラジオドラマ制作 収録・BGMや効果音の選出	
	8	作品制作⑥	ボイスラジオドラマ制作 収録・BGMや効果音の選出	
	9	作品制作⑦	ボイスラジオドラマ制作 収録・BGMや効果音の選出	
	10	作品制作⑧	ボイスラジオドラマ制作 編集作業	
	11	作品制作⑨	ボイスラジオドラマ制作 編集作業	
	12	作品制作⑩	ボイスラジオドラマ制作 編集作業	
	13	後期末試験	ボイスドラマ完パケ	
	14	後期振り返り	舞台音響復習、ボイスドラマ制作復習振り返り	
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>				

## 授業計画(シラバス)

科目名	ストリーミング実習Ⅱ□		指導担当者名	パクスフン
実務経験	有	音響、配信業務経歴20年以上		
開講時期	通年	28ターム	対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年□
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	実習を通して動画を撮影・編集を学び、さらには配信の現場を自分たちで作れるようになる。□ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	パソコン カメラ ATEM□			
授業外学習の方法	様々な映像作品を見る□			
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>	
授 業 計 画  前 期	1	動画とは	動画の画角等	
	2	動画を作ってみよう	premiere proを使用した動画制作	
	3	動画を作ってみる2	premiere proを使用動画の書き出し方法	
	4	配信	Aiを使用したテロップ作りをできるようにする。	
	5	配信	Aiを使用したテロップ作りをできるようにする。	
	6	配信	youtubeの設定と配信	
	7	配信	配信に必要なブロック図と配線の書き方	
	8	配信イベント	配信イベント行ってみる	
	9	配信用のCMを作ってみる	動画を配信に合うように作る	
	10	配信用のCMを作ってみる	動画を配信に合うように作る	
	11	配信用のCMを作ってみる	動画を配信に合うように作る	
	12	配信用のCMを作ってみる	動画を配信に合うように作る	
	13	期末試験		
	14	振り返り		
履修上の留意点 ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

## 授業計画(シラバス)

科目名	ストリーミング実習Ⅱ□		指導担当者名	パクスフン
実務経験	有	音響、配信業務経歴20年以上		
開講時期	通年	28ターム	対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年□
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	実習を通して動画を撮影・編集を学び、さらには配信の現場を自分たちで作れるようになる。□ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	パソコン カメラ ATEM□			
授業外学習の方法	様々な映像作品を見る□			
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>	
授業 計画  後 期	1	前期振り返り		
	2	配信のためのプランニング	配信時間を考える	
	3	タイムコード	音声と映像を合わせる	
	4	配信企画	配信の企画を立てる	
	5	配信必要な素材	配信するときに画面に必要な情報を一覧にまとめる	
	6	良い音で配信するためには？	配信での良い音する方法	
	7	音楽以外の配信プラン	朗読劇での配信	
	8	音楽以外の配信プラン	e-Sportsでの配信	
	9	音楽以外の配信プラン	演劇での配信	
	10	校内ライブで配信するたのプラン	配信プランを立ててみる	
	11	校内ライブで配信するたのプラン	実際に配信を試してみる	
	12	校内ライブで配信するたのプラン	弾き語りの配信を試してみる	
	13	期末試験		
	14	振り返り		
履修上の留意点 ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

## 授業計画(シラバス)

科目名	動画制作演習Ⅱ		指導担当者名	鈴木 良明	
実務経験	有	テレビ局で映像ディレクターとして3年以上従事			
開講時期	通年	28ターム	対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年	
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:	
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間	
学習到達目標	実習を通して動画を撮影・編集を学び、業務レベルの動画を作成できるようになる。				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	パソコン カメラ				
授業外学習の方法	様々な映像作品を見る				
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>		
授業計画 前期	1	オリエンテーション	授業の流れについて		
	2	動画とは	動画についての基礎知識習得		
	3	動画の作成方法について	作成方法と使用ソフトについての説明		
	4	グループ分け	動画制作グループ分け		
	5	動画企画作成①	グループに分かれての動画企画制作		
	6	動画企画作成②	グループに分かれての動画企画制作		
	7	動画企画作成③	グループに分かれての動画企画制作		
	8	撮影①	企画を元にした動画撮影		
	9	撮影②	企画を元にした動画撮影		
	10	撮影③	企画を元にした動画撮影		
	11	編集①	撮影した動画の編集		
	12	編集②	撮影した動画の編集		
	13	編集③	撮影した動画の編集		
	14	期末テスト	作成した映像のプレゼンテーション		
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	動画制作演習Ⅱ		指導担当者名	鈴木 良明	
実務経験	有	テレビ局で映像ディレクターとして3年以上従事			
開講時期	通年	28ターム	対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年	
授業方法	講義:	演習:	実習:	○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間	
学習到達目標	実習を通して動画を撮影・編集を学び、業務レベルの動画を作成できるようになる。				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	パソコン カメラ				
授業外学習の方法	様々な映像作品を見る				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業 計画 後 期	1	前期振り返り			
	2	仕事をする上での動画とは	仕事上で気を付けることを考える		
	3	依頼の受け方	依頼を受ける方法について		
	4	グループ分け	動画制作グループ分け		
	5	動画企画作成①	グループに分かれての動画企画制作		
	6	動画企画作成②	グループに分かれての動画企画制作		
	7	動画企画作成③	グループに分かれての動画企画制作		
	8	撮影①	企画を元にした動画撮影		
	9	撮影②	企画を元にした動画撮影		
	10	撮影③	企画を元にした動画撮影		
	11	編集①	撮影した動画の編集		
	12	編集②	撮影した動画の編集		
	13	編集③	撮影した動画の編集		
	14	期末テスト	作成した映像のプレゼンテーション		
<p>履修上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>					



## 授業計画(シラバス)

科目名	動画撮影実習Ⅱ□		指導担当者名	佐藤 峯
実務経験	有	カメラマン、動画撮影、動画編集者として5年間勤務し、現在フリーで活動している		
開講時期	通年	28ターム	対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年
授業方法	講義:	演習:	実習: ○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間
学習到達目標	基礎的な動画撮影方法、Premiere Proでの動画編集技術を習得し、SNS等への動画投稿までの一連の流れを体験する。□			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。 期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。			
使用教材	Machintosh PC、Premiere Pro			
授業外学習の方法	メディアを通して動画の撮影・編集方法を研究する			
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>	
授業計画 前期	1	オリエンテーション	short動画説明、撮影、授業説明	
	2	映像について	映像の種類と授業で学ぶ映像の説明	
	3	映像について	コンセプトや制作意図について	
	4	映像について	現在の流行、需要のリサーチ	
	5	企画の基礎	マーケティング	
	6	企画の基礎	ブランディング	
	7	企画の基礎	企画書作成	
	8	企画の基礎	企画書作成	
	9	動画制作	動画撮影	
	10	動画制作	動画撮影	
	11	動画制作	動画撮影	
	12	動画制作	動画撮影	
	13	発表	プレゼンテーション	
	14	まとめ	レポート作成	
履修上の留意点 ・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない ・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施				

## 授業計画(シラバス)

科目名	動画撮影実習Ⅱ□		指導担当者名	佐藤 峯	
実務経験	有	カメラマン、動画撮影、動画編集者として5年間勤務し、現在フリーで活動している			
開講時期	通年	28ターム	対象学科学年	動画・映像クリエイト科2年	
授業方法	講義:	演習:	実習:	○	実技:
年間時間数	84 時間		週時間数	3 時間	
学習到達目標	基礎的な動画撮影方法、Premiere Proでの動画編集技術を習得し、SNS等への動画投稿までの一連の流れを体験する。□				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果による評価の他、出席状況、授業課題としての制作物、レポート等の提出状況を点数配分し、100点満点で評価していく。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験、プレゼンテーションによって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は「A(80点~100点:優)、B(70点~79点:良)、C(60点~69点:可)、D(0点~59点:不可)」の4段階とする。A、B、Cの評価は合格とし、D評価の場合は不合格とする。上記成績評価を100点満点で点数化し総合評価する。</p>				
使用教材	Machintosh PC、Premiere Pro				
授業外学習の方法	メディアを通して動画の撮影・編集方法を研究する				

学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	1	オリエンテーション	short動画説明、撮影、授業説明
	2	映像について	映像の種類と授業で学ぶ映像の説明
	3	映像について	コンセプトや制作意図について
	4	映像について	現在の流行、需要のサーチ
	5	企画の基礎	マーケティング
	6	企画の基礎	ブランディング
	7	企画の基礎	企画書作成
	8	企画の基礎	企画書作成
	9	動画制作	動画撮影
	10	動画制作	動画撮影
	11	動画制作	動画撮影
	12	動画制作	動画撮影
	13	発表	プレゼンテーション
	14	まとめ	レポート作成
履修上の留意点 <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない</li> <li>・対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施</li> </ul>			